

CARBOY

[カーボーイ]

パワー競争から開放された今だから
乗ってみたいクルマがコレだっ!

2010

7

JUL

いまどきの GT-R

BNR32 / BCNR33 / BNR34

前回よりもパワーUP!
痛車だけの走行会

茂原de痛車



望月大地+山下広一+日比野哲也が組む
富士チャンピオンレース4時間耐久

CARBOY杯シルビア・180レース

ミッション&デフをもっといたわろう!

チューンドカーの ギヤオイル選び

重要DATA公開

大容量インジェクターテストパート2

新・NEKOの電気学講座

自慢のクルマを見てくれ!

ミーティングレポート

R32保存会 / マイクロスポーツミーティング /
痛車in海ほたる / SA220ミーティング

MSCチャレンジ2連発!

日光サーキット / 備北ハイランドサーキット

<http://www.carboy.jp>

トライボジャパン
丸山秀一氏



発売から約1年でユーザーが急増中!
モータースポーツ生まれのSPLオイル

オイル選びの秘訣は “問診”にアリ

失敗しない

取材協力: トライボジャパン
☎03-3806-8227
<http://www.tribojapan.co.jp>

昨シーズンあたりから、レースを始めモータースポーツの現場で「Motyl's」のロゴマークを目にする機会が増えている。ブランドが誕生して約1年という短い期間ながら、これほど多くのユーザーを獲得した理由はなんだろうか。まずはMotyl'sのアイテムに共通する、徹底したコダワリについて説明していこう。

もともと特筆すべきは、開発に対する姿勢である。現在と10年前のモータースポーツでは、オイルに対する要求が比べモノにならないほど高く、そして細かくなっている。Motyl'sを立ち上げたトライボジャパンは、WRCやル・マン24時間レースから国内のワンメイクレースなど入門カテゴリまで、長きにわたって技術的なサポートを続けている企業。だからこそ、もはやオイルの知識だけで開発する時代じゃないと考えたのだ。大手オイルメーカーで開発にかかわっていた専門家、世界をまたにかけて活躍するレースエンジニア、エンジンデザイナーから一流の人材と手を携え、ルブリカント(潤滑油)・デザイン(エンジン)・マテリアル(素材)の3つをテーマに掲げ、自社ブランドMotyl'sを設立した。

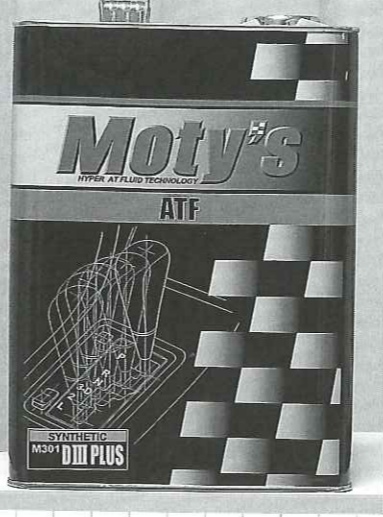
わずか1年の間にリリースしたギヤオイルは、現時点でカタログに掲載されているだけで9アイテム。モータースポーツでは、特定のマシン専用につくったとの意味合いで、レスパシヤルと呼ぶこ

ギヤオイルだけで9種類を用意



ミッションおよびディファレンシャル用は全部で7アイテム、粘度ごとに分けると18種類にも及ぶ。なお従来の「M405」140は、国内では市販していないモデルだ。

ATFやセミAT専用オイルも充実



ATFもラインナップしているが、チューニングカー乗りとして気になるのはセミAT用の「DCTF」だ。専用オイルを設定しているのは、現在のところMotyl'sのみか?

PHOTO&REPORT: 佐藤圭

とがある。それらが一般的に発売されるケースは正直いって少ないが、Motyl'sのオイルはいわばすべてがスペシャル。決して多くはないユーザーに向け、妥協せず開発したアイテムなのだ。

例を挙げてみよう。LSD装着の小排気量FFをターゲットとした「M405」は、現行ウィッツによるワンメイクレース、「ネットカップ・ウィッツレース」から生まれたオイル。ギヤが入りにくいというエントラントの声を受けて開発したのだが、シンクロの同調度を高めつつLSDのチャタリングを抑えるという、相反する要求を両立させた。結果、ネットカップのトップランカーたちからもかなり高い評価を得ている。

またクリアランスが比較的タイトなミッション用の「M408」は、BNR34に代表されるゲトラグ製ミッションを想定。シンクロナイザーリングの外周にある溝の切り方が独特で、それに合うギヤオイルを突き詰めたという。このようにMotyl'sでは、少数のユーザーに対してもサポートを欠かさない。だからこそ、結果を求められるシビアなモータースポーツの世界で、短期間に多くのユーザーを獲得できたのだらう。



かつてスーパーGTに参戦していた「クスコDUNLOPスパリンプレッサ」でも使用。このマシンで名前を知った人も多いはず。



大手メーカーが撤退するなか、ラリー、ダートトライアル、ジムカーナも積極的にサポート。エントラントにとっては嬉しい限りだ。



日本ではあまり知られていないが、アジアを中心に、世界各国から問い合わせがあるんだとか。

する技術の分野であることを承知しながら、昔ながらの鉱物油を再現した。感覚の鋭いドライバーであれば、独特の絡みつくようなフィーリングが味わえるとのこと。

ちなみに「M502」はストリートからサーキットまで対応するオールマイティな製品で、粘度でミッションとデファレンシャルを使い分ける。「M509」は独特の粘着特性と高い耐衝撃性をほこり、サーキットのような高温・高負荷なシチュエーションでも安定した性能を発揮。旧車だけじゃなく、カテゴリによっては新型車に使用することもあるそうだ。

最新のセミATを搭載するR35とランエボX(SST)には、スポーツ走行を想定して開発したフルード「DCTF」を用意。多板クラッチのスリップコントロール特性/シンクロメッシュ適合性、

油圧制御特性、ギヤの耐摩耗特性などをバランスし、「M351」と「M352」の2種類をリリースしている。レイアウトやスペースの関係で高温になりがちな、セミATのウイークポイントを改善できるのはありがたい話だ。

トライボジャパンの丸山さんは「オイル自体の性能はモチロンですが、ミッションやLSDの摩耗や疲労の状態、さらに素材や組み方まで考えなければオイルの開発はできません。だからこそ私たちは現場を最優先させ、データを収集しながらオイルを作り続けているんです。このようなスタイルなので、ラインアップはギヤオイルに限らず、今後も必要に応じて拡大していきます」と話す。

自分のクルマに最適なオイルを探したい、選び方に自信がない人は気軽に問い合わせみてほしい。

ワンメイクレースでも好評



改造範囲が狭いワンメイクレースでは、オイルの性能が勝負を左右するケースも少なくない。NCP91による「ネットカップ・ウィッツレース」からは、「M405」が誕生した。ほかのLSD入り小排気量FFとの相性もバツグン!

Motyl's 性能を追求めた結果として 自社ブランドのMotyl'sが誕生

トライボジャパンでは別の海外製オイルを取り扱っていたが、ユーザーの要求が高度化かつ細分化し、さらに競技ではミッションやLSDの安全マージンを極限まで削るケースが増え、それまでの体制では不十分になった。そこで開発からすべてを自ら対応すべく、新ブランドの「Motyl's」を立ち上げたのだ。

商品名	粘度	対象
M405	75W90	ウィッツを始め、LSDを装着した小排気量のFF車。
M407	75W90/80W90/80W110/85W140	比較的ラフなクリアランスのMT、85W140はLSD対応。
M408	75W85/75W90/75W140	BNR34のゲトラグ製MTなど、タイトなクリアランスのMT。
M409	75W140/80W250/80W190	高温/高負荷/長時間の使用を重視して開発。
M409S	75W140	よりハードな走行を想定したLSD装着のFF車。
M409M	75W140/80W250	WRCなど極限の走行条件にも対応。
M502	75W90/85W140	サーキットからストリートまで対応する鉱物油。
M509	75W90/80W110/85W140	化学合成油では得られない独特のフィールを実現。
M351/M352	148/142	走行条件による油温の違いに対応する2タイプを設定。